

はじめに

2009年度(平成21年度)、札幌市衛生研究所において行われた業務概要をご報告いたします。

2009年度を振り返ってみると、年度初め早々の4月末にアメリカ・メキシコに端を発する「新型」インフルエンザによる世界的流行(pandemic)が起きた年度として皆さまの記憶に残る年度と言えるかと思えます。

近年、「鳥型インフルエンザ(H5N1)」がアジアを起源として発生するのではないかと危惧され続けてきました。しかし、現実には、想定とは異なり、アジアではなくアメリカ大陸において、「鳥型インフルエンザ(H5N1)」ではなく「ブタ由来インフルエンザ(A/H1N1pdm)」が発生したという現実と直面いたしました。日本においても、健康危機への対応として当初より様々な対策が取られてきました。札幌市では、6月中旬に最初の患者発生を確認した後、10月中旬にはインフルエンザサーベイランス上患者発生のピークを迎えました。この間、当衛生研究所は札幌市保健所と連携しながらウイルス検査を行うとともに、感染症情報センターとして情報の発信に努めてまいりました。2010/11シーズンに向け、第二波の発生も危惧されているところであり、今後もインフルエンザ対策については十分な留意をもって、対応してゆく必要があると考えております。

また、調査研究事業、広報活動、国際技術協力等の通常の業務も当初の計画どおり実施されておりますので、詳細については誌面をご覧ください。

当衛生研究所は、札幌市が保健・環境衛生行政を進めていく上で、科学的根拠を提供する技術的中核機関として位置づけられております。この機能を強化していくためには、全国の地方衛生研究所、地方環境研究所とのネットワークの重要性を強く感じております。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2010年9月

札幌市衛生研究所長

三觜 雄